

令和2年4月5日

新2年生の皆さんへ

2年生学年コーディネーター
免疫学講座 関根英治

大学としては、皆さんの学習機会を奪うことなく、何とか予定通り4月6日から授業を開始することを目指し、皆さんの協力を頂きながら準備をすすめていました。しかし、医学部長、教務委員長からの通知のように、昨夜、肉眼解剖学の実習開始を2週間遅らせることを決定するに到りました。英語や器官生理学などの遠隔授業はZOOMを通じて予定通り実施されます。

4月6日以降の注意

1. 健康ダイアリーの運用は当面継続しますので、4月20日(月)までは今まで通り、毎日11時までの記入をお願いします。
2. 今回の件のように、県内外のCOVID-19(新型コロナウイルス感染症)患者数の動向等、我々の予想を超える事態に進む可能性がありますので、必ず、大学からの連絡や、FMU passportを毎日チェックするようにしてください。
3. 行動指針は、三密(換気の悪い密閉空間、多数が集まる密集場所、間近で会話する密接場面)を避けることです。これに関しては、具体的なことを教えて欲しいという質問がありますが、参考になるのは、厚生労働省の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」(2020年4月1日)です。よく読んで現状の理解と対策に努めて下さい。

https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000617992.pdf?fbclid=IwAR3blaTF0_i9msyFPEkTf4aUml0KrZyaHqo-gflsKLn1Ea0nPbz96okYS08

この提言によれば、福島は「感染拡大警戒地域」の一步手前の状態とされます。すなわち「10名以上が集まる集会・イベントへの参加を避けること、家族以外の多人数での会食などは行わないこと」を行動指針としています。大学によっては、家族以外の会食は禁止で、一人で食事をするにとまで、規定しているようです。

本学との協定校、NYのマウントサイナイ医科大学の柳澤先生のコメントを紹介します。毎年本学に来学されているので、ご存知の皆さんもいると思います。

「ニューヨークも1カ月前までは普通だった。新型コロナの感染力は強く、事態は急激に変わる。東京など大都市にはそうなる要素がある。今から早く予防策をとらなければならない。まず、自粛を厳しくして拡散を止めるのが大事。」

皆さんの理性ある行動を望みます。

4. 4月7日の登校が禁止となったことから、4月3日付けで送付した「誓約書」は、全員、4月10日まで必着で郵送してください。
宛先は、960-1295 福島市光が丘1 福島医大教育研修支援課医学部教務係です。
5. 体調が万全ではない等、何かあったときは、些細なことでもよいので、教育研修支援課医学部教務係まで連絡下さい。緊急でなければ、メール (gakuseik@fmu.ac.jp) でお願ひします。
6. この2週間の時間の使い方
医学の勉強をするのは当然ですが、いろいろな小説や古典など、医学とは直接は関係しない書物を読むといったことができるチャンスでもあります。是非、有意義に使いましょう。
7. 今後の実習について
2週間、肉眼解剖学実習の開始が遅れたということは、どこかで2週間の穴埋めをしなければならないことは想像に難くないと思います。この件については、現在検討中です。方針が定まり次第報告しますので、お待ち下さい。

最後に、3月に健康ダイアリーを開始する際の説明を、もう一度引用します。「これらはいずれも、感染拡大のリスクを最小限に抑えるために必要な行動です。結果的に感染することが悪いのではなく、防げる可能性があるのにその努力を怠ること、あるいは早期発見ができる可能性を自ら放棄することが問題です。医療人を志す者としてふさわしい行動をこころがけ、日々の健康管理をお願いいたします。」

今回の経験は、皆さんの今後の医療人としての人生において、必ずや貴重な体験になるはずです。また、皆さんは、歴史上、長く記憶されるであろう事態に当事者として参加しているという事実も心に刻んでいただければと思います。これからも、それぞれが健康管理をしっかりおこない、実習が再開した時には、元気な皆さんとお目にかかれることを楽しみにしております。